



菊川専務取締役



大同火災W i L 少短の松村社長

### B-Prost 最先端保険システムフレームワーク

## 保険業界での実績とノウハウが評価 大同 W i L 少短の基幹システムに採用

保険業務に精通する業界特化型のプライムベンチャーである㈱B-Prost(東京都港区、魚住憲治社長)が提供する最先端保険システムフレームワーク「BIMs(ビームス)」が、大同火災W i L 少額短期保険(沖縄県那覇市、松村幸司社長)の基幹システムに採用された。保険業界におけるこれまでの実績とノウハウが評価されて導入に至ったもので、大同火災W i L 少額短期保険のデジタルスキームを構築した。「BIMs」は保険会社が保険販売を行うシステムとして必要な機能を網羅しているが、少短会社向けには必要な機能を選択して実装することが可能だという。

### 保険会社のニーズに特化

「BIMs」は、保険会社のニーズに特化したシステムフレームワーク。顧客管理やクレーム管理、見積り/契約保全/収納管理など保険業務の核となる機能に最先端のテクノロジーを適用することで、対面・非対面に問わず、商品を販売・保全する上で必要な共通機能をアプリケーションで実装し、短時間で低コストと拡張性を表現する。主な特徴は、①保険業務サービスを追求したS O A、マイクロサービスアーキテクチャー②可視化された開発手順とビジネスルール定義③保険商品の多様性を柔軟に取り込むドキュメント構造のデータベース④オンライン型、クラウドサービス(SaaS)型のどちらの環境でも構築可能の4点。

①により、保険業務の

要となる処理フローやデータベースを、それぞれドキュメント構造のコンポーネントとして扱ったことで、急な要件変更や機能拡張にも柔軟に対応する。

②に関しては、保険商

品モデルとデータベースの正規化を表現する。リアルタイムデータのパイプラインによるN O S Q L ( N o t O n l y S Q L ) データベ

として④は、従来のオンラインプレミス型だけでなく、クラウドサービス(SaaS)型を利用した場合でも問題なく構築することが可能だ。

B-Prostの菊川専務取締役は「BIMs」は保険会社が保険

販売を行うシステムフレームワークとして必要機能を選択しているが、少短会社向けには必要な機能を選択して実装することが可能。すでに稼働中のシステムやソフトウェアにAPI連携することで、より相互運用性を

高めた利用が可能だ」と話す。

開発に当たっては、保険商品の概要とビジネスモデルの要件から推察して業務とシステム化の要件を整理・作成し、アジャイル開発を推進。週1〜2回の会議を通じて要望のヒアリングと進捗状況の報告を行うとともに、同社からも積極的に改善提案してプロジェクトを進めた。

大同火災W i L 少額短期保険は「BIMs」の採用により、契約管理、収納管理、代理店管理、損害管理、保険金支払い、出再管理、決算などの保険業務のシステム化を実現した。

また、顧客は連携する不動産ポータルサイト「グーホーム」で賃貸借契約を締結した後、スマホ・モバイル端末から保険の契約手続きができるようになっている。その際、API連携により借

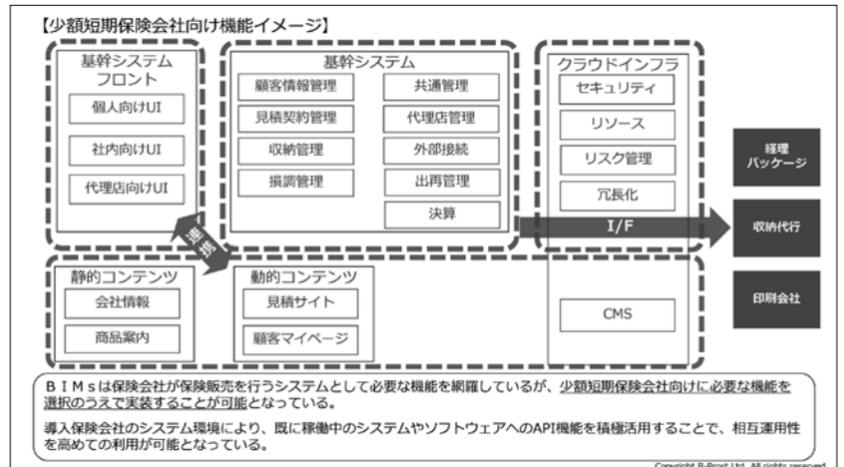
用住宅の所在地が保険申し込み画面へ反映されることから、契約プランの

選択、氏名、電話番号の入力、払込方法(クレカ払い・コンビニ払い)の選択を行うだけで申し込みが完了する。スマホ・モバイル端末から契約内容の照会や変更手続き、事故連絡、保険金請求手続きも可能だ。

一方、代理店は保険契約手続きの際の重要事項説明や保険料の徴収、書類の授受・郵送手配などの負担が軽減された。また、代理店からもスマホ

期保険では、今後の決算業務や契約更新手続き業務などに備えて業務効率化を推進しながら、基幹システムについても機能強化に取り組んでいくとしている。

また、基幹システム構築のプロジェクトを推進した菊川専務取締役は、「顧客も代理店も使い勝手が良いシステムになるよう、そこにこだわって取り組んだ。今後要望に対して柔軟に対応していきたい」と語る。



少額短期保険会社向けの「BIMs」構成イメージ

### 保険業務のシステム化を実現

大同火災の100%子会社である大同火災W i L 少額短期保険は、大同火災グループのデジタルチャネルとして、スマホ・モバイル端末から保険契約手続きや事故報告などを行うスキームを構築している。その基幹システムに採用されたのが、B-Prostが提供する「BIMs」だ。

同社は大同火災W i L 少額短期保険の提示したシステム開発の条件をク

リヤするとともに、これまで他の少短会社設立に伴う基幹システムの構築において短期間かつ低コストで開発してきた実績とノウハウがあったこと、また、大同火災の契約者向けウェブサイトを

「マイページ」の構築実績も考慮され、導入に至ったという。

また、顧客は連携する不動産ポータルサイト「グーホーム」で賃貸借契約を締結した後、スマホ・モバイル端末から保険の契約手続きができるようになっている。その際、API連携により借

用住宅の所在地が保険申し込み画面へ反映されることから、契約プランの

選択、氏名、電話番号の入力、払込方法(クレカ払い・コンビニ払い)の選択を行うだけで申し込みが完了する。スマホ・モバイル端末から契約内容の照会や変更手続き、事故連絡、保険金請求手続きも可能だ。

一方、代理店は保険契約手続きの際の重要事項説明や保険料の徴収、書類の授受・郵送手配などの負担が軽減された。また、代理店からもスマホ

期保険では、今後の決算業務や契約更新手続き業務などに備えて業務効率化を推進しながら、基幹システムについても機能強化に取り組んでいくとしている。

また、基幹システム構築のプロジェクトを推進した菊川専務取締役は、「顧客も代理店も使い勝手が良いシステムになるよう、そこにこだわって取り組んだ。今後要望に対して柔軟に対応していきたい」と語る。